

合は注意を要する。

ボウエン
4. **Bowen 病** Bowen's disease ★

Essence

- 表皮内有棘細胞癌の一つ。
- 境界明瞭な 1 ~ 10 cm 程度の紅褐色～黒褐色局面。
- 慢性砒素中毒で多発する場合がある。
- 病理組織学的に表皮全層に異型細胞を認める。個細胞角化と多核の異常角化細胞が特徴的。
- 治療は外科的切除，凍結療法など。

症状

高齢者に単発する。円形から楕円形の，境界が比較的明瞭な直径数 cm 程度の浸潤性局面を形成する。色調は紅褐色～黒褐色調。扁平隆起性の局面で，表面に鱗屑や痂皮を付着し，これを剥離すると紅色のびらん面が露出する（図 22.10）。ときに小結節を伴う。

病理所見

表皮内有棘細胞癌の病理像を呈する。過角化や不全角化，異常角化（個細胞角化）および多核の異常角化細胞（clumping cell）が表皮内に認められ，これら異型細胞が表皮全層にわたって増殖している点の特徴的である（図 22.11）。

病因

単発性の Bowen 病では病因は不明であることが多い。露出部に生じる Bowen 病は紫外線やヒト乳頭腫ウイルスが関与す



図 22.10① Bowen 病 (Bowen's disease)

ケイラー
Queyrat 紅色肥厚症 (erythroplasia of Queyrat)

MEMO





図 22.10② Bowen 病 (Bowen's disease)

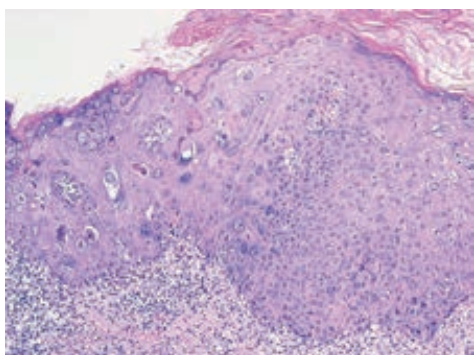


図 22.11 Bowen 病の病理組織像
個細胞角化および多核の異常角化細胞 (clumping cell) が表皮全層に認められる。

る。多発性の Bowen 病で砒素摂取との関連性が高い。よって診断には摂取既往の聴取、育った国、環境（慢性農薬中毒、汚染井戸水の使用、集団砒素中毒など）が重要となる。日本では砒素を含む農薬は禁止されているが、普通に使われている国も存在する。

慢性湿疹，乾癬，日光角化症，乳房外 Paget 病，表在型基底細胞癌などと鑑別する。生検によって確定診断する。

治療

外科的切除が第一選択。そのほか、抗悪性腫瘍薬外用（フルオロウラシルおよびブレオマイシン），凍結療法。

予後

放置すると基底膜を破り，有棘細胞癌に移行することがある。このように進行したものを Bowen 癌という。

5. 白板症 leukoplakia ★

定義

粘膜や皮膚粘膜移行部に発生した白色斑ないし局面。WHO では「臨床的，組織学的に他のいかなる疾患（扁平苔癬やカンジダ症など）にも特徴づけられない，白色調の斑ないし局面」と定義されている。しかしながら皮膚科領域では，他疾患によるものも含めて臨床的に白板症と呼ぶことが多い。本症のなかには有棘細胞癌に移行するものがあるため，前癌病変として重要である。

症状

50 歳代以上の男性に多く，喫煙者に好発する。口腔や口唇

砒素角化症 (arsenical keratosis)



(口腔) 毛状白板症 [(oral) hairy leukoplakia]

